

3 課題と今後の対応

本市の下水道は、これまで「生活環境の改善」、「浸水の防除」、「公共水域の水質保全」を基本的な役割として着実に事業を進め、今日汚水については概成し、公共水域の水質も著しく改善されるほど、大きな成果を上げてきた。

しかし、雨・地震等の自然災害に対する備えや施設の老朽化への対応に加え、「世界の環境首都」実現に向けた都市環境のさらなる改善、既存ストックのさらなる活用など、以下のとおりの取組むべき課題がある。

- (1) 雨や地震等の自然災害に対する備え
- (2) 下水道施設の老朽化への対応
- (3) 川や海の水質保全
- (4) 良好な水辺空間の創出への寄与
- (5) 低炭素化に向けた取り組み
- (6) 既存ストックの活用
- (7) 国際貢献
- (8) 地域コミュニティとの連携
- (9) 広域化に向けた取り組み

北九州市上下水道事業中期経営計画

平成28年度から令和2年度を計画期間として、今後重点的に実施する下水道の取り組み方針を定めた「北九州市上下水道事業中期経営計画」を策定した。

基本理念

『水めぐる“住みよいまち”をめざして』

対 策	重 点 施 策
1 災害等の危機管理対策 ～安全で快適な暮らしを支えます～	震災対策の拡充・強化
	豪雨対策の拡充・強化
	危機管理体制の充実・強化
2 経年化施設の長寿命化・更新 ～将来にわたって使い続けられるように、上下水道の機能を維持します～	アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新
3 環境負荷の低減 ～水や資源の循環と低炭素化を進め、より良い環境づくりに貢献します～	環境にやさしい保全活動の推進 (合流式下水道の改善推進、放流負荷量の削減)
	地球温暖化対策・資源のリサイクル事業の推進
4 国内外に貢献する上下水道 ～高い技術やノウハウを活用し、国内外に貢献します～	本市が持つ技術力・経験を活かした国際貢献
	多様な形態による広域連携
	地域に親しまれる上下水道
5 収支バランスを踏まえた経営基盤の強化 ～事業を支える「人・モノ・カネ」の経営基盤の強化に努め、安価な料金を維持します～	効率的な事業運営
	多様な収入の確保
	職員の育成と活用

2 下水道の計画

1 社会資本整備重点計画

今年度は国の第4次社会資本整備重点計画の5年目となる。この国の計画を受け、本市では下記のような重点施策に取り組んでいく。

○雨水整備

安全な都市づくりのため、雨水排水施設的能力アップや河川と一体となった総合的な計画に基づいた効率的な整備を推進する。

○合流式下水道の改善

公共水域の水質保全のために、合流式下水道の改善に努める。

○改築・更新

老朽化が進んだ下水管、ポンプ場、浄化センターの効率的な改築・更新を行う。

○処理場・ポンプ場の整備

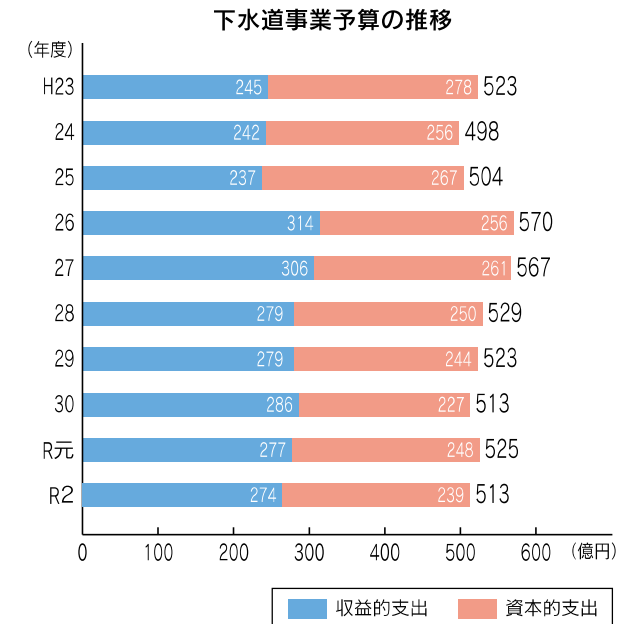
下水道の普及や雨水整備で増加した汚水や雨水に対応するため、処理場の増設やポンプ場の新設・増設を行う。

○高度処理

水質環境基準に準じてリン・窒素の除去率を高め、公共水域の富栄養化防止のため、段階的に高度処理に取り組む。

○水洗化の普及

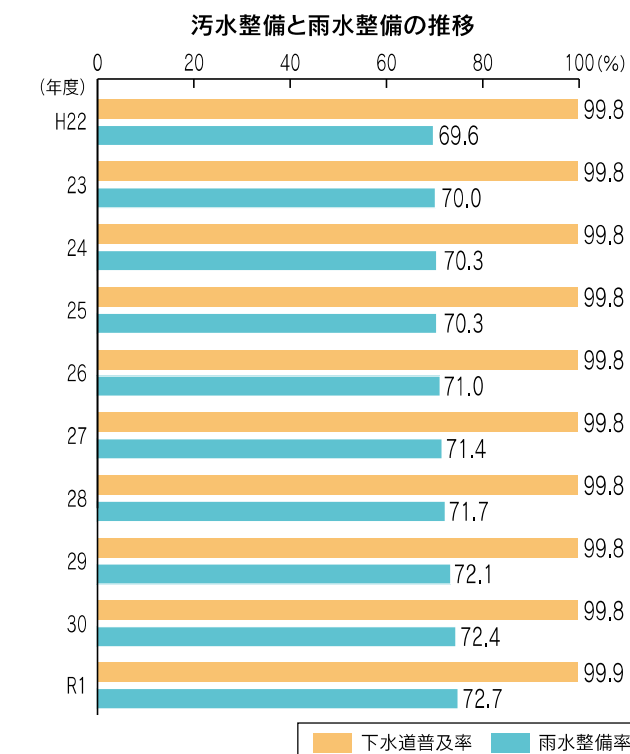
くみ取り便所改造に対する助成・貸付等の援助制度や支援制度を活用して、処理区域内の完全水洗化を目指す。



2 下水道整備事業

下水道を整備するためには大変な時間とコストがかかるため、計画的に整備を行っている。

下水道事業認可面積:18,775ha



(1) 汚水整備

下水道で整備する区域については、平成17年度末に概ね完了している。環境首都を目指す本市としては、快適な市民生活の実現と、川や海など自然環境保全のため、私道の整備や浄化槽の普及も進め、汚水処理100%の実現を目指している。

(2) 雨水整備

浸水に強い都市づくりを目指して、雨水排水施設的能力アップ、雨水流出抑制施設の導入、雨量情報システムの導入など、ハードとソフトの両面から対策をたて、効率的で効果的な雨水対策を進めている。令和2年度末には約73%の整備率を目指している。



金山川ポンプ場

住宅地(区画整理事業)内に建設するため、周辺地域との調和を持たせた外観